

## 留学生の学内外における活動

食物栄養専攻2回生

趙 淑 卿

いよいよ卒業の日を迎えるようになりますが、まるで昨日留学してきたところのような気がしています。でも、この一段落の日々がすでに思い出に化して脳の中に永遠に刻み込まれました。

留学してきた当初に遠回し自転車で1時間がかかって市役所へ行ったことがあるけど、今、自分のふるさとにいるように平気で出入りができることになりました。そのうちに、自分の考え方や行為方式なども日本人らしくなってきました。こういうように変わってきたのはもちろんいろいろなことに影響されているのです。

まずは学んでいる食物栄養専攻の授業です。もともとは「目で楽しむ料理」と評判されていることしか知らない日本食文化について、この2年間の勉強を通して理論的にしても、実践的にしても、確実に進んでいます。そして、どのように中国に導入して、中国で生かすかをときどき考えております。例えば、生活習慣病の予防と食事療法について、経済の発展を全力的に着手している中国の将来に必ず参考になるでしょう。また、老人福祉政策について、1979年から一人っ子の政策を実施してきた中国政府でも必ず「少子高齢化」の時代を迎える時に参照になるでしょう。また、本当の日本料理は、目で見て楽しむ、食べておいしくて、栄養のバランスがよいということがよく分かりました。このような認識があるのはけっして一朝一夕ではありません。38カ科目の授業、一泊二日のテーブルマナー、1週間の校外実習などから少しずつ積んできたのです。専攻用語の難理解、校外実習の酷暑とレポート量の膨大などを一つ一つ乗り越えて、今では、考えたら、頑張ってきた後の嬉しさだけを感じます。

次は、キャンパスの祭り・行事・クラブ活動です。1年に1回の成美学園祭は、日本人の学生たちと交流するいい機会だと思います。2000年度の学園祭に留学生たちの食堂が出したメニューをまだ覚えていますか。それはギョーザ・チヂミ・凉拌三絲、たまごとトマトのスープです。私が今でも覚えているのはその時の献立の名前だけではなくて、またその時の暖かい場面もある。一生懸命に料理を作っていた留学生たちと同様に一生懸命にできた料理を運ばれていた日本人のクラスメートたちとの友好的な合作と熱意がいつまでも忘れないと信じております。2001年度の学園祭に吉田千秋先生のパン屋さんにお手伝いしました。朝7時から午後4時までのパン作りは本当に疲れ果てましたけど、一人の留学生として日本人の友達と一緒に仲良く頑張っていた場面そして作り上げたパンを全部売れた大人気でみんな喜びに堪えない笑顔は充実した留学生活の中で素晴らしい一筆をまた添えました。

また、私が日本文化に興味を持っていることを知られている田岡洋子先生に紹介していただいて、箏曲部に加入しています。今でも「さくら」ぐらいの曲目しか弾かないけど、週に1回のクラブ活動が留學生活の質と量を増して、そのお琴の音を聞いて微妙に心を落ち着かせます。

最後は人との輪を広がっている交流活動です。2000年5月に福知山市日中友好協会に主催された「大中国展」で知り合った石坪義之さん・岡村さわのさん・高木はつ子さんはそれからずっと自分の子供のように可愛がってくださいます。お蔭様で、ずっと前から憧れている着物を着せていただきました。しかも、よく私を連れて、各種の日中友好交流会に参加したり、日本人の友達の家を訪れたり、日本の名物を味わったりしに行きました。また、留学生センターの伊藤俊志先生のご紹介で何回も福知山市の中・小学校の交流会及び各国際協会の交流会に出席したことがあります。このように様々な活動を通じて、両親と遠く離れている寂しさを慰められてきたし、豊かな日本の地方色文化にも触れました。

生命は一冊の本に譬えたら、この山青く、水も空気もきれいな福知山での730日の留學生活がその中で代わりに豊かで多彩な1ページになっています。親切な福知山市の人々に心から感謝しております。